

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2000

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)



四国山の日

No.1077 2009年12月号

「森づくりから始めよう温暖化防止! 未来に残そう美しい自然」

「四国の森づくりフォーラムinとくしま」を開催

【詳細は2頁以降に掲載】



上勝町長歓迎の挨拶



四国山の日賞表彰式の様子



フォーラムの様子

## 国有林野等所在市町村長連絡協議会を開催



一月一二日、四国森林管理局において「四国国有林野等所在市町村長連絡協議会」を開催しました。

本協議会は、地域社会と国有林野事業の連携強化を図り、地域産業の振興、住民福祉の向上に寄与することを目的に毎年開催しているものです。会議には管内七署(所)の有志協議会の代表世話人である市町村長、局長をはじめとする局幹部、林野庁から川端業務課長、森川特用林産対策室長が出席し、協議会会長である上治馬路村長の議事進行により、「民国連携による森林整備の推進」をテー



マに意見交換を行いました。

代表世話人からは、各有志協議会での議論を踏まえ、

○森林資源の多面的機能を大いに発揮していくため、民有林と国有林が一体となって森林整備の計画や実施の推進が必要である。

○シカなどの野生鳥獣による被害が増加しており、国有林でも実施できる獣害対策、或いは共同で実施できる対策がないか検討をお願いしたい。

○間伐事業について、森林所有者の元にお金が返ってくるような補助金の見直しや、あるいは切り捨てられた間伐材が、有効利用できるような補助金の創設などの検討が必要である。

○国有林を環境教育の場として継続的に利活用することが、国民の森林としての価値を高めることにつながると考える。地元自治体や関係団体と連携した取組をお願いしたい。

○国産材の国内消費量拡大のため、パルプ原料として一定量の国産材使用の義務付けや、環境、景観の観点から、

治山、林道事業など公共工事にも木材を積極的に活用していく必要がある。

などの提言があり、熱心な意見交換が行われました。森林管理局としても、こうした意見を踏まえ、今後とも、民国が連携して「国民の森林」として相応しい国有林の管理経営に取り組んで参ります。

## 「四国山の旦」徳島で開催 「四国の森づくりフォーラムinとくしま」 (総務課・指導普及課)

一〇月三十一日、十一月一日の両日、徳島市及び上勝町で、四国の森づくり実行委員会、四国の森づくり徳島県実行委員会主催による「四国の森づくりフォー



勝浦町生比奈緑の少年団による記念植樹後

ラムinとくしま」が、「森づくりから始めよう温暖化防止！未来に残そう美しい自然」をテーマに開催されました。

このイベントは、森林の持つ多面的機能を発揮させるため、森林整備、木材利用や、森林環境教育活動を地域住民やボランティア、関係機関等と連携・協力して取り組むこととして、平成十六年度に四国四県と四国森林管理局が行った「四国の森づくりに関する共同宣言」に基づくものです。

六回目の今年は、美しい森林づくり全国推進会議発起人の徳島県出身、立木義浩氏による「総ては繋がっている。」と題した基調講演から始まり、参加団体による活動報告や、「森の再生・まちの復活」をテーマとしたパネルディスカッションで一日目は終了しました。

二日目は、森づくり活動を上勝町高丸山千年の森で「四国山の日賞」及び「森林の俳句コンテスト」などの表彰式及び伝達式を行いました。

当日天候が急変し、予定の植樹活動を全員で実施することは出来ませんでした。雨の降る中、参加者は高丸山のブナ林の紅葉を楽しみ森づくりの大切さを実感し、四国四県のNPO等四国の森づくりに関して認識を

ひとつにし、交流を深め、二日間を終えることが出来ました。

また、上勝町内外の住民一体となったエコの取り組み事例など見学しながら帰路につきました。

※第五回 森林の俳句コンテスト入賞作品は一月号に掲載します。

## 高校生現場実習(第二) 農業高校生を対象にした 森林環境教育を実施 (総務課・指導普及・嶺北森林管理署)

平成二一年度の高知農業高等学校森林総合科の森林環境教育の一環として一年生を対象に現場実習を、一〇月一九日嶺北森林管理署管内中の川国有林で実施しました。

また、二年生は一〇月一六日に、高知農業高校で林業の動向、森林管理局の業務に関する講話とあわせて入庁案内を行いました。

今年度は、三年生が春先に、木材流通、治山事業、林道事業の現場視察を終え、二年生と一年生はこの時期の実施となりました。

一年生は、学校の演習林で、チェンソーの取り扱いや、ラジキャリ(自走式集材設置)等の取り扱いはずでに経験済みでしたが、スイングヤーダ、プロセッサ等





1 年生・高性能林業機械

の高性能機械など見るのは初めてで作業の様子に興味深く観察していました。

生徒からは、「なぜ、一台の作業車にスイングヤーダやプロセッサ等複合機能を集合させないのか」等質問が出るなど、最新機種への興味は尽きないようでした。

作業の見学では、採材作業の早さも含め、オペレーターの経験に裏打ちされた技術に、生徒達も感心しきりでした。

また、当現場の請負担当者から、森林整備の重要性と、林業の現場への就職の呼び掛けに対し興味を持った生徒もいたようでした。

今回の学習で、一年生は、林業機械を使用した森林整備を学び、今後は、最近の森林・林



## 次代への森づくり 「古事の森」の手入れ実施

業・木材産業を取り巻く状況や四国の森林・林業の現況等について学んでいくことになります。

また、二年生は、来年の進路を決するに当たり、四国森林管理局をはじめ森林林業関係の職場を希望してくれることを願っています。

松山城、道後温泉など木の文化を象徴する伝統的木造建造物の修復材確保を目的に平成一九年度に締結した「伊予の二名島古事の森」の三回目の森づくり活動が一〇月二四日、愛媛県久万高原町（石鎚山系の中腹）のサル谷山国有林で二二名の参加により実施されました。

伊予の二名島古事の森育成協議会の江崎会長から、「伝統的木造建造物と、次代に引き継がれるべき文化財の保存と存続に不可欠な資材を確保するための森づくりの思いを込めながら作業をして下さい。」との挨拶の後作業に取りかかりました。

森づくり作業は、森林管理のための歩道の修理と、植栽木の生育確認及び補植箇所の刈りだしを行いました。

参加者の一名が、平成一九年

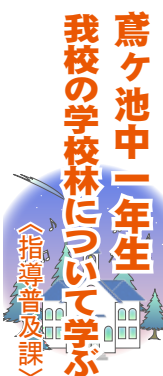


刈出し作業

の協定の記念式典の際に、前会長（松山城主末裔、故人）が植栽された樹木の生育を確認され、この木が次代に引き継がれることを念じ刈りだし作業に精を出されていました。

石鎚山地区も紅葉が始まり行楽客で賑わい、作業の後の面河溪谷での昼食は一段と美味しく感じました。

最後に、次世代に引き継ぐという長い期間に渡る取り組みが始まったばかり、継続することが大切と、来年の再会を誓い解散しました。



## 鷹ヶ池中一年生 「我が学校の森について学ぶ」

一月一三日、高知県南国市立鷹ヶ池中学校一年生六五名が、学校が所有する学校林について学びました。



水の実験：きれいな水なに「おー」

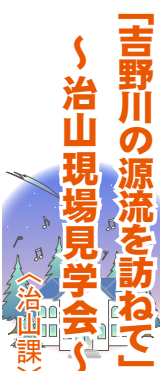
同校の生徒は、三年間で、学校林の歴史、森づくりを学び、学校林の整備を体験します。

今回は、一年生が、「学校林の歴史」「森林のはたらき」「森で遊ぶ」を体験することになっていました。しかし、あいにく、朝から荒天との天気予報に、彼らの学校林デビューはお預け、学校での授業となりました。

授業は、まず、同校の先輩から「学校林の歴史」を学び、次に、四国森林管理局が、「森林のはたらき」について水の浸透実験装置を使った実験を実施しました。

生徒達は、森林による水の浄化作用と、保水能力を実験装置を通じて視覚で体験できたようでした。

最後は、学校林の立派に育つ



## 「吉野川の源流を訪ねて」 「治山現場見学会」

「吉野川の源流を訪ねて」をキャッチフレーズに治山事業の施工地と土佐藩主が参勤交代の際に宿舎としても使用した旧立川番所書院の見学会を大豊町協賛のもと十一月一日に開催しました。

当日は穏やかな天候と紅葉の盛りにも恵まれ、一般公募の方と国有林モニターの方、併せて二八名の参加がありました。



堰堤長 74 m の木製残存型枠ダムを見学

森林管理局が実施している治山事業の必要性を広く一般の方々に知って頂くため、吉野川源流の国有林治山と隣接する民有林直轄治山の現地において、木製残存型枠治山ダム工、集水井工、アンカー工木製受圧板の施工箇所を見学しました。

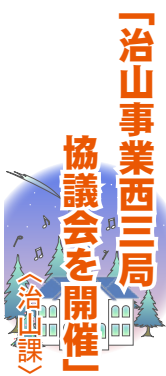
四国三郎吉野川源流の森林を守る治山構造物の働きや、間伐材を利用し周辺の環境に配慮した工法等について説明を行うと、参加者からは「こんな山奥まで通って仕事しているの」「地すべりの原因を初めて知った」「木製のダムはいいね」等々の声が聞かれました。

午後からは紅葉に染まる吉野川沿いの溪谷を横目に見ながら、約二〇〇年前に建立された木造建築物、旧立川番所書院を訪ねました。

一〇月二八日(三〇日、平成二一年度治山事業西三局協議会を開催しました。

この協議会は治山技術の研鑽及び治山業務に係る意見の交換等を行い、治山事業の発展を目指し、平成二一年度から西三局(近畿中国・九州・四国)の持ち回りで年一回開催しているもので、本年度は四国局で実施しました。

協議会初日は局会議室にお



立川番所では立川御殿保存会会長の石川晴朗さんから、書院建物についての説明のほか、坂本龍馬もこの地を通ったことなど、現存する資料に基づいた詳しい説明を受けました。

また、立川体験交流会の女性の方々から、手作りの和菓子と抹茶のおもてなしをして頂き、参加者一同幕末の時代に想いを馳せながら風情ある時間を過ごしました。

四国森林管理局では、今後このような機会を通じて、治山事業の必要性や木造建築の良さ等を理解してもらうための見学会を続けていきたいと考えています。



釜ヶ谷国有林の復旧現場にて

いて、各局から提案された二四項目の検討課題に対し、事業実行上の問題点、各局の状況などの情報交換等を行いました。

二日、三日目は、平成一六年に災害を受けた、高知中部森林管理署管内のヒカリ石国有林復旧治山工事、徳島森林管理署管内の阿津江地区地すべり防止工事、釜ヶ谷国有林災害関連緊急工事の治山現場で現地検討会を行いました。

現地では、四国の急峻な地形による災害を目の当たりにして、自局との比較、工法への質問等活発な意見が飛び交う現地検討会となりました。

その後、現地で取りまとめを行い来年以降もこの協議会を通じて国有林野事業の治山事業の発展を誓い協議会を終りました。

## 各地の

### たより



### 秋の八面山は大人気

〈ふれあいセンター〉

一〇・十一月は、小・中学校から森林環境教育の支援要請が集中しますが、黒尊川源流域の森林である八面山は、例年、人気のフィールドです。今年も、四万十市の利岡小学校・下田小学校・具同小学校・西土佐中学校の四校、計一四五名を対象に実施しました。

愛媛県側の登山口を出発し、歩道沿いの樹木やニホンジカの食害などを説明しながら、八面山頂上(一、一六五m)を目指しました。頂上では、ここが高知県と愛媛県の県境であること話をすと、登山の疲れも忘れて驚きの声が聞かれました。

その後、近くのブナ林へ移動して、職員が、森林の持つ様々な働きを説明する「森林教室」を実施しました。

学習の後のお楽しみは、ブナの大木にロープを架けた特製ブランコ。「怖いー!」と言いつつも徐々に慣れ、順番待ち



森林教室

ができる盛況となりました。子どもたちは、森林教室や実際に木や土に触れたり落ち葉を踏みしめる体感を通して、八面山に降った雨が黒尊川から四万十川に流れ込み、暮らしに欠かすことのできない水となることなどが理解できた様子でした。

### 森林再生に一役

#### 小・中学生が黒尊山に植樹

〈ふれあいセンター〉

ニホンジカの食害を受け、当センターが森林再生に取り組んでいる四万十市西土佐にある黒尊山国有林で、一〇月二七日には、四万十市立下田小学校六年生一七名がイロハモミジ四一本を、十一月二日には、四万十市立西土佐中学校一年生二六名がブナ三〇本を植樹しました。